

日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

* 主な記事 第12回(2018年度)大会のご意見・ご感想 ・その他

2018年11月19日 JPTA事務局 〒158-0083 東京都世田谷区奥沢8-10-7
メールアドレス info@j-pta.net FAX 03-3702-3097

今年度の日本パペットセラピー学会大会は、「子どもたちを育むパペットセラピー」をテーマに、子供にとって強い味方であるパペットのみならず、子どもたちの周囲の関係者にとっても強い味方であるパペットの効果を再認識することができました。(副理事長 中下富子)

☆ 日本パペットセラピー学会第12回(2018年度)大会長 ご挨拶 ☆

会期：2018(平成30年)10月14日(日)

会場：埼玉県地域医療教育センター・埼玉県立大学大学院サテライトキャンパス

第5回の埼玉大学での開催に続き、埼玉県での開催は2回目となり、大会テーマを「子どもたちを育むパペットセラピー」として、埼玉県立大学と共催で開催いたしました。

「子ども」をキーワードとした本大会には53名ご参加いただきました。埼玉県立大学林恵津子教授からは、子どもたちとパペットセラピーの活用される環境や「感情労働」についてご講演いただき新たな視点気づく機会となりました。長年取り組まれている教育現場で実践の報告や子どもを軸とした様々な視点からの研究発表、さらには発達障害児とのパペットセラピーにつきまして、原美智子理事長より特別講演をいただきました。毎年参加者の皆さんが楽しみにされている腹話術レッスンも会場が大変盛り上がりしました。新たな取り組みとしての簡単パペットの作成は、参加者の皆様自身のセラピーとなる時間であったように思います。また、大会長講演として、ソロモン諸島国の小学校でのパペットセラピーの成果を報告させていただきました。皆様のお力添えで全日程を無事終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

(大会長 上原美子、副大会長 須賀綾子 白井美穂)



第12回 大会「教育講演」「教育実践」を聴いて

今大会のプログラムそれぞれの内容が、関連しているように思いました。教育講演の埼玉県立大学保健医療福祉学部 林 恵津子教授による「子どもをとりまく環境とパペットセラピー」が現代社会の子どもたちに関わる生活の様子から、家族関係、地域社会での課題が明らかにされ、その課題をどう解決し取り組んでいくべきかを具体的な事例が紹介されました。パペットは幼児期における人的環境と物的環境の中間にあるということ、想像力と共感性を育む幼稚園の園長先生のふうちゃんパペットの活躍。パペットはもう一人の別人格を演じてくれる。助け船を出してくれる存在で感情を使って安心を与える。「感情労働」をサポートしてくれる。等多くの気づきを示唆されました。



次に報告されたお二人の小学校教育現場でのパペットを活用した教育実践も親子関係、子ども同士の関係をよりスムーズにしていくための試行の実践が教育講演の内容と関連していました。出山雅章先生の実践は、お母さんたちの協力で家庭での人間関係をよくして行こうとする取り組みでした。お母さんに、パペットをどう使ってもらおうかそのアプローチの難しさをどうすれば良いか「ファミリーパペットセラピー」を追求するうえで教育講演から学ぶものがあったかと思えます。セラピーの効果を見るのには、期間とか回数とかはやはり長くないと成果は分析できないのでしょうか。岡信行先生のソックスパペットを制作するところからの取り組み、子どもたちが取り組みやすくするためのマジックテープを使う工夫も感心させられました。実践からまとめられたパペットの持つ10項目の教育的効果を様々な場面で、より活用され実践研究が深まることを願いました。

人形を制作する、そのパペットのキャラクターをどうするか、自己投影させることもあるかもしれません。セラピストも一緒に演じあう実践はフランスの精神の病の治療「マリオネットセラピー」とも共通するものだと思います。(副理事長 高村 豊)

「腹話術レッスン」の感想



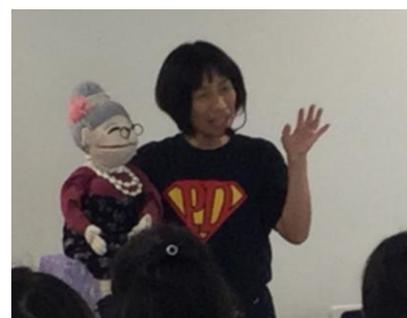
午後の休憩後、腹話術レッスンが行われました。この企画をご自身の腹話術スキルアップのために、楽しみにされていた方は多いかと存じます。かくいう、私はその一人です。今回は、お二人の先生にご教授いただきました。最初に、日本腹話術師協会運営委員、腹話術インストラクターの安藤倫子先生がご登壇されました。平成27年の第9回大会腹話術スペシャルレッスンにて、池田武志名誉理事長にご登壇いただきました。安藤先生は助手という形で参加され、また、短いショーをされました。私は、その時にも演技の素晴らしさに心躍りました。今回の、先生とパペットのフジコ先生の演技は、1996年国際腹話術師コンベンションにおいて、最高の腹話術師に選出された、全米のジュディ・ブッシ(Judy Buch)とOld Ladyのショーを観ている錯覚に陥りました。会場は花が咲いたように、一瞬で明るく華やかになりました。腹話術の基本、キャラクターボイス、リップシンクロ、リップコントロール、マニピュレーションの技をご伝授いただきました。さらに、キャラクターやスクリプトについても教えていただきました。短い設定時間でしたので、レッスン時間は風のごとく過ぎてしまいました。

腹話術の基本を押さえた後は、木村操先生のご登壇、「歌う腹話術師みー先生のおかしな世界〜お笑い腹話術マジックショー〜」でした。ショーを楽しみながら、「声が遅れる時差」と、「両唇音の発音」を中心にご指導していただきました。年間100回以上の公演をこなされている先生です。テンポと流れ良く、きびきびと、ヘアゴムのマジックも教えていただきました。最後は、「高校3年生」の曲に合わせて、先生が歌われながら、パペットと会場を巡り、皆さんとパペットが握手を交わしました。笑い多く、和やかなうちにレッスンが終わりました。私事ですが、先生には、わが子の通う障害者施設にボランティア公演に来ていただきました。何事にも関心の少ないある利用者さんが、先生のペットボトルのマジックに見入り、終了後も手にしていた光景や、みんなで楽しく笑う姿、偉大な腹話術師を招致できたわが子の誇らしげな姿が、目に焼き付いています。腹話術の技の奥に、人を想う温かい気持ち、大事ですね。また、それは相手に伝わり、温かい関係性ができますね。

パペットセラピーを実施する際、最も重要な腹話術技術について、お二人のレッスンを通して、私たちは学ぶことができたと思います。
(理事 江川久美子)

参加者の方からの感想

今回は埼玉県狭山市から、腹話術を学んで実践している保育士2名と、ヨガセラピスト1名と、私の、計4人で参加させていただきました。このうち2名の方は、3月のワークショップに参加して大変良かったので、ということでした。帰りの電車で、皆さん口々に「全体的に密度が濃く大変勉強になった。現場で研究されている方々がたくさんいらっしゃることを知り、驚いた。時間があればもっと個々の講演、実践、研究内容を詳しくお聞きしたかった」と、今回も参加して成果が得られたことを喜んでおられました。年に1回しかないのは残念で、このように学べる研究会のような集まりが、年に数回でもあったら参加したい、とも言っていました。



今回は「子供たちを育む」という視点に絞られていたことが、初めて参加する人にも分かりやすかったと思いました。特に現場でパペットを介在させて、親子支援、保育などに当たっている狭山市組の彼女たちにとって、理論的に言葉で整理され伝えられる講演は「ああ、こういうことだったのか」「ではこの場合は？」と、直ぐに具体的な体験と結びついたのでしょうか。感動と共にもっと追究したいという意欲が湧いたようでした。保育士研修で是非、このようなお話を聞かせてほしい、と、パペットセラピーを多くの保育士に広めたいと切望していました。私自身も、腹話術が様々な現場でコミュニケーションの役に立つことが、構造的によくわかり、もっと学びたいと思いました。なんとなく面白いから腹話術を学ぶだけでは、もったいない。腹話術は、やる人の生きるちからを引き出し、見る人の成長をも助ける素晴らしいツールであることを、もっと多くの人に知ってもらいたい、と痛切に感じました。
(会員 安藤 倫子)

第12回大会の感想

原 美智子 理事長

著者みーちゃん(M)と相棒のシャロームパペット ロンくん(R)の対話

R: みーちゃん、今年2018年の10月14日、日曜日にあった第12回大会、素晴らしかったね！ 大会長は誰だったっけ？

M: 上原美子理事よ。埼玉県立大学の保健医療福祉学部准教授で、学校精神保健などを専門分野に研究をされている医学博士の先生よ。先生は、大学の激務の中、その上、大会直前にはソロモン諸島にもお仕事で出かけたりしてお忙しい中、大会の準備をされたの。

R: ソロモン諸島？ そんな遠いところまで？ 大変だったね。大会の会場大きかったね。

M: 先生のご関係の埼玉県立小児医療センター8階にある埼玉県地域医療教育センターのフロアをほぼ全面貸切りで使わせていただけたのよ。しかも無料で。

R: 素晴らしい施設だった。参加者は全部で何人だったの？

M: 全部で53人よ。非会員の方も5名参加されて、その内の2名の方が、大会の後すぐに学会に入会して下さったのよ。

R: それはよかったね。大会に参加されて、学会に意義を感じたってことだね。どんな人？

M: 言語療法士の先生と特別支援学校の先生。

R: パペットは、リハビリにも教育にも効果あるものね。今回の大会もいいプログラムだったものね。毎年、大会にはテーマがあるけど、今年はなんだった？

M: 大会長が、「子どもたちを育むパペットセラピー」になさいました。今年は子どもへのかかわりに焦点を当てたのね。どの子にも輝く「子どもの未来」を支えるために、パペットの力についてみんなで色々考えたのね。ほんとうにどのご発表も充実した内容でしたし、参加者からも質問やコメントをたくさんいただきましたね。今年の機関誌が楽しみです。

R: 会場にはいろんなブースもあったね。竹内先生の読み聞かせの絵本とか岡先生の靴下パペットの本、それと池田名誉理事長の腹話術のDVDとか売っていたね。みーちゃんもいっぱい買ったでしょ！

M: そうなの。見るとすぐに色々買いたくなっちゃうのよね。

R: 祝電も来ていたね。国会議員の人から。

M: そう。野田監事のご友人で、私たちの被災地支援活動をずっと応援してくださっている、元復興副大臣の参議院議員の方。

「パペットの力は、癒し、勇気、励ましであり、世界に通じる対話術だと思います。皆様方の活動によって、多くのご家族が希望をもって前に進めることを願います・・・」って電文でした。

R: パペットセラピーのことをよく理解してくださっているお言葉だね。

M: ほんとね。パペットの真髄は「対話術」ですよ！ パペットは口が開いて対話ができる！

それがパペットの、他のものには代わる事のできない、一番大事な機能ですよ！ パペットが、言葉を話せて人間に昇格し、人格を持った独自の存在となることによって、ほんとうの治療効果が生まれます。この事をあらためて確認してほしいと思いますね。

R: そうだね。ほかの人形たちにも治療効果は色々あるとしても、でも、人形に自分のほんとうの心の内にあるものを打ち明ける事は無いよ。絶対に！

M: その通り！ 口が動いて対話ができる、人になったパペットだからこそ、心のうちを打ち明けられるのです。来年の大会は、相模女子大学の人間社会学部人間心理学科教授の森平直子理事が大会長になる事が決まったけど、大会テーマを、対話術・



対話力にかかわるものにして、パペットの持つ、この大切な機能をより高めるにはどんな心理学的技術や理論があるのか、心理学の分野から光を当てる大会にさせていただきたいと思っています。

R: 待ち遠しいな～

M: そうね。それにしても対話の基本はパペットが生き物としてお話ができる事なので、その技術も磨かないとね。それで、来年度は大会前日に腹話術の専門家から指導を受けるワークショップをやろうということになったのよ。

R: 確かに。大事な事だね。今回の大会午後の腹話術レッスンの時に、座長の江川久美子理事がその事、言っていたね。楽しみだ～！来年の大会と前日の会はいつになるの？

M: 来年も10月開催の予定。手続きの都合で、まだ来年4月にならないと日程は確定しないの。でも、どんな企画になるのか、楽しみね。

R: そうだ！学会ホームページに色々お知らせが出るからよく見てないね。

M: そうよ、ホームページよく見てね。私は毎日チェックしてますよ。

R: ねー ねー 大会の後に、同じフロアの埼玉県立大学大学院サテライトキャンパスでやった懇親会も楽しかったね～。司会の岡先生と出山先生が腹話術を披露して楽しませてくれたし、岡先生は自作の楽器のバンブリーナの演奏もしてくれた。

M: 懇親会には、腹話術レッスン講師の安藤倫子先生もおばあちゃんパペットと参加してくれましたね。

R: うん。おばあちゃんパペットとの腹話術いっぱい見せてくれて、楽しかった。おばあちゃんパペット、ほんとに生きてたよね！驚いた～！それから、埼玉県立大学のロゴの付いた手提げ袋に入ってたサンドウィッチ美味しかった～！お菓子も入っていたよ。

M: 手提げ袋と一緒に入っていたお菓子の小袋は、学生スタッフの方たちが一生懸命作ってくださったものよ。うれしかったわね。とにかく大会すべてにお心のこもったおもてなしを感じました。

R: 本当に暖かさが感じられる大会だったね。

M: 大会プログラムの司会や座長を担当してくださった理事のみなさまにもお礼申し上げます。お疲れ様でした。ありがとうございました。

R: ぼくも、大会につれてってくれてありがとう。リュックの中、ちょっと狭かったけど。また来年もよろしくね。今度はぼくも懇親会で歌を披露しようかな～

M: はい！いいわよ。お歌、楽しみにしているわね。



「事務局だより」

今回は、事務局より次の2点についてお知らせします。

1 昨年度より年会費の納入について、原則として口座振替にしましたので、昨年度は、納入率は100%でしたが、今年度は、現時点で、自主納付の会員様で数名の未納の方がおります。督促をしても、未納のまま年度末になりますと、自動的に退会扱いとなり、再度の入会の場合は、入会金が必要となりますので、ご注意ください。

2 今年度は、新規入会の会員様は、現時点ではおりません。これは、当学会の発足以来、初めてのことです。お知り合いの方で、ご興味のある方がおられましたら、お声かけをいただきたいと思います。新しい会員様にご参加いただくことは、学会の活性化のためにも役立つこととなりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



(事務局 阿部雅代)